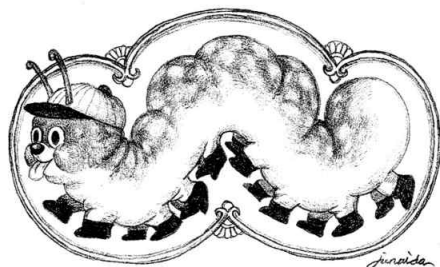


歌壇 俳壇



＜日曜日のブローチ 27＞ junaida

短歌時評 共作の可能性

山崎 聡子

「何年か、二人の歌人の共著による短歌集を目にするようになった。以前は穂村弘と東直子の『回転ドア』は、順番に『各自立つ程度だったが、木下龍也と岡野大嗣の『玄関の覗き穴から差し込む光のように生まれたはずだ』、同じく木下と鈴木晴香の『荻窪メリーゴーランド』など、SNSなどにも取り上げられ、広く読者を得た本も多い。恋の始まりから終わりまでを散文と短歌で見せる『回転ドア』、二人の男子高校生の七日

間を描いた『玄関の覗き穴』、ミステリータッチのラブストーリーが展開する『荻窪』――どれも二人の言葉のセシヨンがスリリングで、贈答歌の文脈をもつ短歌ならではの、と言えそう。そんな共著歌集の最新刊がどういふんと染野太朗の『恋のすべて』だ。愛してって告げているのにこの喉をひっそり塞いでゆく秋の蝶（染野）湯呑のように分厚い月がふたりの影伸してひとつのばけものにする

（文）／「嫉妬」ファッション誌「Numero TOKYO」の連載を元にした本書は、「水族館」「ふれる」などの題詠を元に、古典的な歌題である「恋」が描かれる。面白なのは、共通の物語を語ろうとしていた先の三冊と異なり、レトリカルで内省的な染野の歌と、言葉が自由に跳ね回るくどうの歌が物語として交わることがないことだ。にもかかわらず、そこには共作による化学反応が存在し、短歌という「個」に帰結しがちな表現を風通しよくしている。瀟洒な装丁も含め、外に開かれた短歌の可能性を感じた一冊だ。（歌人）

第12回佐藤太郎短歌賞 現代短歌社主催。山中律雄さんの第6歌集「光圏」（現代短歌社）に決まった。渡辺松男歌集「あぢさみだつたらあぢさみの中」第12歌集。「記憶にも肉身がある」とあとがきに記す。「かがみの奥のわたしから手ののびてきてどんなにのびてもわれへとどかぬ」（書肆侃侃房・2530円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週1回作品まで）。QRコードから

長谷川 權選

平和賞強請るものかは秋の風
（福岡県鞍手町）松野 賢珠
虐殺を盾に虐殺冷ましき
（久留米市）塚本 恭子
いい人で終へる人生温め酒
（始良市）井之川健児
胎の子に心の宿る良夜かな
（日立市）川越 文鳥
秋晴や一日で父となる不思議
（習志野市）加藤 真理
ヴァン・ゴッホ真昼の如く星月夜
（大阪市）灘本 忠功
ハルウラウ走つては負け秋の星
（桶川市）玉神 順一
モナ・リザの薄ら笑ひや秋の暮
（南アルプス市）榊原 章男
あれほどの菊のお顔もお骨のみ
（横須賀市）榎本 二郎
さはやかにふるさと納税返れし
（静岡市）宮崎 泉

【評】一席。一国の長らしからぬ浅ましさ。相手にするのも一苦労。二席。復讐を正義と考える人々よ。正義を超える道理を。三席。「いい人」で終わるしかないか。しかし……という句。十句目。税金の返礼？ 日本の「お礼文化」が背景に。

大串 章選

金秋の朝日創刊五万号
（山梨県市川三郷町）笠井 彰
老境の命全開曼珠沙華
（川崎市）杵渕 有邦
敬老日愚直に生きて米寿なり
（鎌倉市）今川 淳
露けしや何かにつけて死を思ふ
（長野市）縣 展子
柿が好き横顔が好き子規が好き
（村上市）鈴木 正芳
あかときの秋の湖面を小舟かな
（浜松市）久野 茂樹
秋の空雲には雲のドラマあり
（札幌市）三船 悦子
虫の音の消えて耳鳴り残りけり
（香芝市）土井 岳毅
廃屋に暮らしの名残り酔芙蓉
（香川県三木町）出水 義弘
百歳の話は愉し秋桜
（戸田市）蜂巣 幸彦

【評】第1句。「創刊五万号」とは素晴らしい。その片隅に私たちの「朝日俳壇」もある。第2句。「命全開」がポジティブ。斯くして人生を全うすべし。曼珠沙華が赫く静かに。第3句。「愚直に生きて」が謙虚で堅実。敬老日に来し方を振り返る。

高山れおな選

竹の春廃駅ひとつ沈めたり
（さいたま市）関 とし子
虫籠に子の泣き声を入れにけり
（市川市）をがはまなぶ
☆秋つらら古墳のごときメロンパン
（北九州市）松本ゆきこ
木の上に猿見てをり宮相模
（長崎県波佐見町）川辺 酸模
灯火親しかつて信濃に読書村
（立川市）和田 秀穂
昭和とは吾が若きころちろる鳴く
（狭山市）朝日 和信
してはしごとが言えない落花生
（成田市）かとうゆみ
空蟬の地を駆けゆく残暑かな
（松山市）小谷 正和
灯台の影くつきりと秋の海
（行田市）吉田 春代
形なき残暑の疲れありにけり
（長野市）縣 展子

【評】関さん。路線も廃されて久しい。大竹敷の緑のみが濃く。をがはさん。文字通りにシュルレアリスムのイメージを受け取る。虫籠に子の姿はなく、泣き声だけが聞こえて。松本さん。形に加え、凸凹でぼそぼそしたところも古墳っぽいかな。

小林 貴子選

大好きな看護師の去る秋の暮
（甲府市）藤巻 嘉秀
この度はイメージ通り松手入
（茨木市）河本 要
秋の蟬空調服の唸り過ぐ
（中間市）松浦 雪
他愛なき話秋思の処方箋
（津市）森島 靖子
ふくらみて白パンのごとき大きき
（東かがわ市）丸山 朗
台風に我はしたいぞ進路指導
（東京都新宿区）岩本 朗
委細承知ぼんと膝打つ秋扇
（船橋市）小泉 芝雲
やめさせてくださいと言ふ秋の夢
（新潟市）加藤 英夫
☆秋つらら古墳のごときメロンパン
（北九州市）松本ゆきこ
秋分や俳壇記者の小気味好し
（戸田市）蜂巣 厚子

【評】一句目、患者にとっては心のよりどころでもある看護師さん。二句目、何事も頭の中で描いている形にはならないことのほうが多い。三句目、最新装備の服で乗り切った今年の残暑。十句目は「朝日俳壇の選者とともに」にて司会を担当。